京都市

# 【 A. 取り組みの全体像】

## 1.自治体の概要

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| **自治体名** | 京都市 | **担当部局名** | 保健福祉局<br>健康長寿のまち・京都推進室<br>健康長寿企画課 | **人口** | 1,463,723（人）<br><令和2年10月/国勢調査> |
| **自治体内連携** | **庁内連携部局（メイン）** | 保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課 | **庁内連携部局（メンバー）** | 子ども若者はぐくみ局、文化市民局、教育委員会事務局、環境政策局、保健福祉局、都市計画局、消防局 | |
| | **連携内容** | 孤独・孤立対策の取りまとめ、孤独・孤立対策庁内連絡会議の主催　等 | **連携内容** | 孤独・孤立対策庁内連絡会議（年１～２回程度開催）において適宜情報共有等を行う中で、孤独・孤立の問題への認識を深め、支援策の効果検証や新たな問題への対応等を進めている。 | |

## 2.形成をめざす地方版連携PFの姿

**従前の取り組み**

※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等

- 令和3年4月、保健福祉局をチームリーダー、関係各局を構成員とした「孤独・孤立対策プロジェクトチーム」を設置し、これまで個々の課題に応じて、丁寧かつきめ細やかに実施してきた取組の融合、更なる充実・強化を図るとともに、近年顕在化しているヤングケアラーなどの新たな課題についても取組を進めていくこととした。孤独・孤立対策プロジェクトチームでは、計7回の会議を開催するとともに、ヤングケアラーの実態調査、孤独・孤立実態調査を実施し、結果を踏まえて4つの視点での事業展開を整理し、報告書として公開した。
- 令和4年度には、報告書の方針にのっとり、孤独・孤立対策官民連携PFのベースとなる連携協定を結ぶとともに、「京都市版お悩みハンドブック」を導入した。

**実現したい状態**

※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境

| | |
|---|---|
| 今年度のゴール | □ 横の連携を強化するための支援団体同士がつながる仕組みを構築すること<br>□ 市民に対して広く孤独・孤立の問題や支援情報を周知すること |
| 最終的なゴール | 京都市の孤独・孤立対策の４つの視点<br>1. 関係機関・団体等の横のつながりを強化し、重層的な支援体制を構築する<br>2. 地域のつながりを高め、「孤独・孤立」に陥りにくく、支援につながりやすい環境を整える<br>3. 「孤独・孤立」に関する様々な問題に柔軟に対応できる取組を展開する<br>4. 漠然と「孤独・孤立」に悩む方にしっかりと情報が届くよう、広報の方法等も含めて対象者へのアプローチの方法を工夫していく |

## 3.地方版連携PFの外部連携体制

| | | |
|---|---|---|
| **地方版連携PF**<br>立ち上げ年度<br>令和4年度 | 参画メンバー | 京都市、市・区社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者地域生活支援センター、障害者休日・夜間相談センター、こころのサポートふれあい交流サロン、男女共同参画センター、DV相談支援センター、公益社団法人、社会福祉法人、企業、一般社団法人、NPO法人、こども食堂、フリースクール、子育て支援団体、民生児童委員連盟、保護観察所、保護司会連絡協議会、居場所づくり活動団体など |
| | 選出・打診時の工夫 | 孤独・孤立に関する連携協定を締結　126団体（令和6年4月2日時点）<br>※参画団体を随時募集している。 |
| **地域協議会**<br>設置年度<br>未（代替あり） | 参画メンバー | 京都市（区役所・支所保健福祉センター）、市・区社会福祉協議会、その他関係団体<br>※社会福祉法に基づく支援会議に機能追加する形で、14区役所・支所それぞれに設置 |
| | 選出・打診時の工夫 | 取り上げる具体的なケースに応じてPF団体内外から必要な支援者がアドホックで参加 |

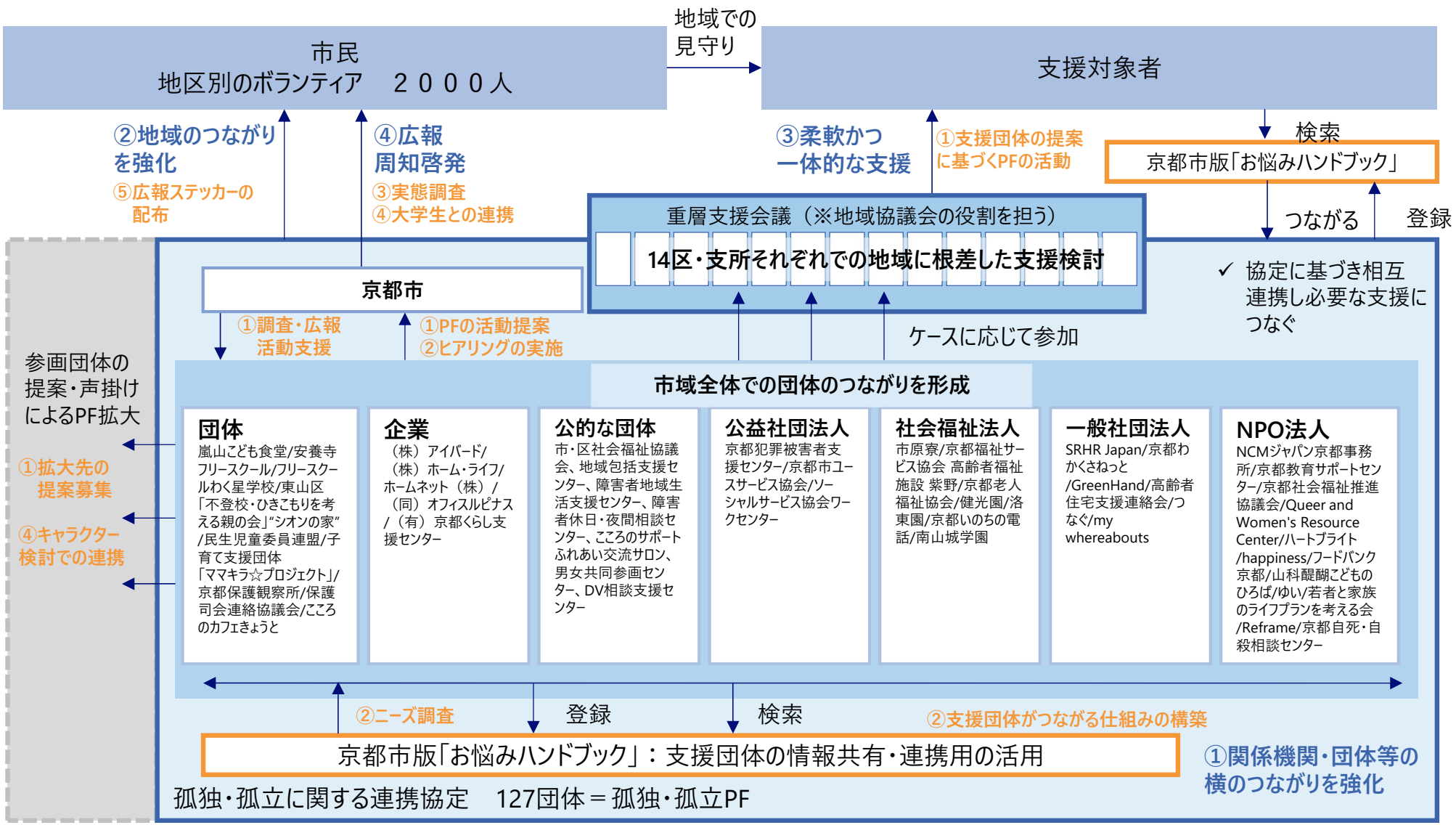
## 4.PF連携による価値や工夫_考え方

- □ **支援団体同士（＋支援団体と当事者等）がつながるための仕組み**の1つとして情報連携の基盤を整えるため、「お悩みハンドブック」をベースとした仕組みを試行する。（視点１）
- □ 支援団体の支援およびPFの活動内容を検討するための情報収集として、地域のつながりの状況、孤独・孤立の状況について**市民を対象とした実態調査**を行う。（視点２）
- □ 実効的なPFとするため、**PFに参画する支援団体の活動状況**を把握するだけでなく、PFとしてどのような活動が必要かの**ニーズ調査**を行うことで、様々な問題に対して実態に即した取り組みを検討する。（視点３）
- □ ・「支援を求める声を上げやすい・声をかけやすい社会」の実現に向け、市民への広報ツールとして、キャラクターデザインの制作に取り組むとともにステッカーを制作し、**PF参画団体の協力も得ながら配布**を行う。（視点４）

# 【 B.連携PFイメージ】

【凡例】
京都市の孤独・孤立の４つの視点
令和6年度試行的事業

## ５．連携PFのイメージ図





Copyright (C)　Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業】_一覧

## 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

| 試行的事業のポイント・工夫 | □ PFの機能を活性化するための方針を定めるため支援団体のニーズ把握する。<br>□ 調査や事業を通じて、支援団体の活動や思いを把握する。 |
|---|---|

| | 事業名称 | 事業内容 | 目的／期待効果・KPI | 実施時期 | 発注先（予算） |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 支援団体を対象とした実態調査 | 連携協定締結団体にアンケート調査等を行った。アンケートを通じて、PFについての周知を行い、PFとしての位置付けを明確化した。アンケートでは、PFとして必要だと思う活動、PFに入るとよいと思う団体等について情報を収集、整理し、次年度以降のPFの活動の検討を行った。<br>また、２のつながる仕組みの検討に参加できる団体の募集も合わせて実施した。 | • 支援団体の取組や課題意識、ニーズを把握すること<br>• 次年度以降のPFの活動検討等のベースとすること<br>• 支援団体に対してPFの周知を行うこと<br>成果検証項目<br>➢連携協定が京都市におけるPFであることを伝えられた<br>➢ニーズとして、支援者同士が交流する機会と、課題解決事業等のニーズを把握した<br>➢今年度２の事業で交流会を開催することとした。また、次年度以降の実施計画のベースとなった。 | ✓ 11月 | ー<br>発注なし |
| 2 | 支援団体がつながる仕組みの確立 | 既存の京都市版お悩みハンドブックが支援団体同士（＋支援団体と当事者等）がつながるためのツールとして活用できるのかを検証した。<br>方法としては、いくつかのPF参画団体へのヒアリングにより、知りたい情報、伝えたい情報などのニーズを聞き取ったうえで、情報をお悩みハンドブック上に掲載することとした。<br>また、活用できるように説明会を開催し、お悩みハンドブックの活用を促すとともに、活用方法等について話し合う場を設けた。 | • 支援団体同士のつながりの形成に活用すること<br>• 支援団体にとって使いやすい仕組みがどのようなものか整理すること<br>• 次年度以降の支援者同士のつながり形成に向けたニーズを把握すること<br>成果検証項目<br>➢説明会では、支援者がつなぎ先を探すといった活用方法の意見が出た。<br>➢最新情報に更新する必要性や、団体数を多く確保する必要性など新たな課題も意見から把握された。 | ✓ 11月～２月 | グラファー（254万円） |
| 3 | 孤独・孤立に関する実態調査 | 市民を対象に孤独・孤立に関する実態調査を実施し、市内の孤独・孤立の実態について把握した。具体的には全国版の実態調査をベースとして京都市版にアレンジしたアンケート調査（WEBモニター、標本数1,000（人口分布に則った割付反映後））を実施した。結果をもとにPFに参画する支援団体への情報提供を行うとともに、行政内における政策検討のための材料として整備した。 | • 京都市内の孤独・孤立の状況について把握すること<br>• 京都市内の孤独・孤立の状況について支援団体に情報提供を行うこと<br>成果検証項目<br>➢京都市の結果では、孤独を感じることがしばしばある・常にあると回答した人は9.5%、間接質問においても合計スコアが「10～12点」の人が10.8%と全国と比較しても若干高い傾向が見られた。<br>➢支援団体が集まる説明会において、京都市の実態について情報提供を実施した。 | ✓ １月 | サーベイリサーチセンター（106万円） |


Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業】_一覧

## 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

| 試行的事業のポイント・工夫 | □ PFの機能を活性化するための方針を定めるため支援団体のニーズ把握する。<br>□ 調査や事業を通じて、支援団体の活動や思いを把握する。 |
|---|---|

| | 事業名称 | 事業内容 | 目的／期待効果・KPI | 実施時期 | 発注先（予算） |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 大学生と連携した孤独・孤立対策のイメージ検討 | • 大学でキャラクターデザインを学ぶ学生を巻き込み、孤独・孤立対策のイメージキャラクターの制作を実施した。具体的には、大学および講師と連携し、学生に孤独・孤立対策について知ってもらい、学生を選定、大学、講師のディレクションの下制作に取り組んでもらった。<br>• また、孤独・孤立対策について学生に知ってもらい、デザイン案を制作してもらうことで学生への孤独・孤立対策の周知を行った。 | • 官学連携のきっかけとすること<br>• イメージ制作を通じた学生の孤独・孤立対策に対する理解の促進<br>成果検証結果<br>➢参加した学生からは、取り組むことで孤独・孤立対策に対する理解が進んだという意見が得られた<br>➢大学と課題意識を共有し、連携することができた | ✓ 12月～1月 | 京都精華大学（22万円） |
| 5 | 京都市の孤独・孤立対策の啓発ステッカーの制作 | • 京都市の孤独・孤立対策（京都市版お悩みハンドブック）を周知啓発するためのステッカーを制作する。ステッカーを行政だけでなくPF団体とともに配布することで、PF団体への孤独・孤立対策の周知もあわせて行った。 | • 孤独・孤立対策の一般市民への認知の拡大<br>• PFについてのPF参画団体への認知拡大<br>• お悩みハンドブックの認知度向上、利用促進<br>成果検証結果<br>➢相談窓口に設置し、気軽に受け取れるようにした。また、相談窓口のQRコードが掲載されているシールを窓口に貼るなどして周知啓発に活用した。<br>➢PFの団体に対して、PFの広報として配布した、また、団体から相談窓口の周知啓発として配布を依頼した。<br>➢職員からは、「窓口のパーテーションに貼ることでまずは何だろうと見てもらえるきっかけになった」、「キャラクターメインのステッカーなので手に取りやすい」といった声があった。 | ✓ 2月 | 富士印刷社（18万円） |

## 7.次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- PFへの草の根の民間支援団体の参加団体数の拡大
- 今年度実施したニーズ調査に基づく、勉強会・交流会の開催および支援団体の抱える課題に基づく事業検討

## 8.孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 連携協定についてHP上で発表したことで、加入したいという団体から連絡があった。


Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. NRI

# 【C.試行的事業一覧】_１.支援団体を対象とした実態調査

| | | | |
|---|---|---|---|
| 概要 | • 連携協定締結団体にアンケート調査等を行った。アンケートでは、PFとして必要だと思う活動、PFに入るとよいと思う団体等について情報を収集、整理し、次年度以降のPFの活動の検討を行った。 | ねらい | • 現在活動が情報共有にとどまっているPFを活性化するために、支援団体のニーズに基づく活動を計画すること。 |
| 工夫点 | • アンケートに合わせて、PFについての周知を行い、PFとしての位置付けを明確化した。<br>• 試行的事業２の支援団体のつながる仕組みの検討の参加も募集した。 | 結果 | • 支援団体同士がつながることや、課題解決型の事業推進等のニーズが把握でき、今年度もつながる仕組みづくりの事業において説明会の場で交流する機会を設けるとともに、次年度以降の実施計画のベースとした。 |

**調査概要**

- 10月～11月にかけて、市からPFのメンバーである支援団体を対象として以下の設問のアンケート調査を実施し、30団体から回答が得られた。
- アンケート調査は市のHP内の回答フォームを利用し実施した。
- アンケートと合わせて、PFの周知や、試行的事業②の取組への参加希望の聞き取りも合わせて実施した。

## 調査内容

【前提】
1．団体名

【PFでやりたいこと等について】
※PFの説明を記載
2．PFにおいてどのような取組をしたいですか。又は、どのような取組があれば参加したいですか。
3．PFにおいてどのような団体とつながりたいですか。
4．PFに新たに加わったら良いと思うのはどのような団体ですか。
5．孤独・孤立対策に関して関係団体等がつながるためにどのような機会があると良いと思いますか。
6．孤独・孤立対策に関して関係団体等がつながるに当たって課題はありますか。それはどのような課題ですか。
7．PFの参画団体向けに研修会を実施する場合、どのようなテーマや講師の講義を受けたいですか。

【お悩みハンドブックでの情報共有について】
※お悩みハンドブックの説明を記載
8．他団体に関して知りたいこと、自団体に関して他団体に知ってほしいことはありますか。
9．自団体に関して、孤独・孤立の状態にある当事者等に知ってほしいことはありますか。
10．今年度、試行的に数団体のページを作成する予定です。参加してみたいと思いますか。

【孤独・孤立対策としての広報について】
※支援情報の広報を実施する旨を記載
11．市内でチラシを設置する場合、公共施設のほか、どのような場所・施設が良いと思いますか。
12．上記の場所・施設をはじめ、チラシの設置に向けて協力を依頼するために、つないでいただけるところはありますか。
13．チラシの配布以外で、実施すると良いと思う広報はありますか。（手法、対象、内容　等）

## 調査結果

【PFでやりたいこと等について】
- 支援団体同士でつながりたいというニーズや、具体的につながりたい団体の属性等の意見が得られた。
- さらにPFに加わるとよいと思う団体として、学校や教育関係、医療機関、若い世代を支援する団体などの意見が得られた。
- PFでは、勉強会や互いの活動を共有する交流会、具体的な事例を共有、議論する場などの意見が出た。

【お悩みハンドブックでの情報共有について】
- 試行的事業②の支援団体同士がつながる仕組みの検討への参画には13団体から今年度または次年度参加したいとの回答が得られた。

【孤独・孤立対策としての広報について】
- 広報活動についてもチラシ等を設置する場所の提案や、SNS等での広報、グッズの制作等の意見が得られた。


Copyright（C） Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業一覧】_２.支援団体がつながる仕組みの確立

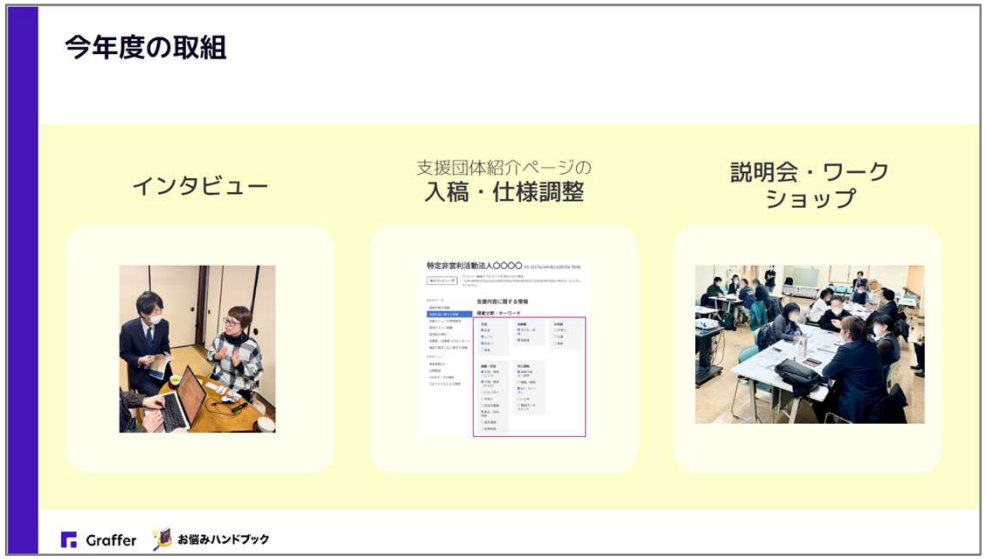
| | |
|---|---|
| **概要** | • 既存の京都市版お悩みハンドブックは当事者等が公的な支援制度や相談窓口を見つけ出せるツールだが、支援団体同士（＋支援団体と当事者等）がつながるためのツールとして活用できるのかを検証した。 |
| **工夫点** | • 掲載内容は、支援団体に詳しくヒアリングすることで、お互いに知りたい情報、伝えたい情報などのニーズを聞き取った。<br>• 説明会を開催することで、活用促進および支援団体の交流場を設けた。 |
| **ねらい** | • 支援団体同士がつながることで、途切れない支援を提供できる体制を構築すること。 |
| **結果** | • 支援団体からつなぎ先を探す際に活用できるといった意見が得られた。<br>• 説明会においてさらなる改善点等についても意見を得ることができた。<br>• 支援団体へのヒアリングを通じて支援団体について知る機会となった。 |

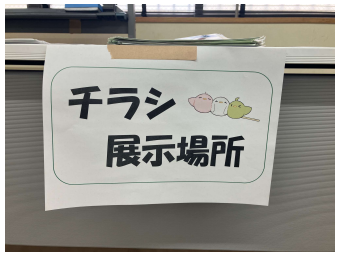
## 取り組み概要

- 既存の京都市版お悩みハンドブックは支援団体と当事者がつながるためのツールであるが、支援団体同士がつながるためのツールとして活用できるのかを検証した。方法としては、**試行的事業①において参加希望を出した団体**からいくつかの団体を対象とし、**団体へのヒアリングを実施**した。ヒアリング結果に基づき、団体の活動内容や、知りたい情報、伝えたい情報などのニーズを聞き、**支援をカテゴリ化する等工夫をして、情報をお悩みハンドブック上に掲載**した。

## 説明会の様子

- お悩みハンドブックが活用されるようにPFの参画団体を対象とした説明会を開催し、**お悩みハンドブックの活用を促すとともに、活用方法等について話し合う場**を設けた。説明会では、「お悩みハンドブック」の**制作者から設計上の工夫や意図について直接伝えてもらうことで、PFの団体の理解を深めることができた。**
- 支援団体同士がつながるきっかけとしても活用できるように、お互いの広報物を共有したり、孤独・孤立対策として何が必要かを話し合う機会としても活用した。







Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業一覧】_３.孤独・孤立に関する実態調査

| | | | |
|---|---|---|---|
| 概要 | 市民を対象に孤独・孤立に関するアンケート調査を実施し、孤独・孤立の実態を把握した。結果をもとにPFに参画する支援団体への情報提供を行うとともに、行政内における政策検討のための材料として整備した。 | ねらい | • 行政内や支援団体における活動の位置づけや意義を説明するためには定量的なデータと市民の声が必要と考えた。 |
| 工夫点 | • アンケート調査票に啓発のメッセージを掲載することで、あわせて孤独・孤立の問題の周知啓発を行った。<br>• 全国版の調査と内容をあわせて、全国と結果を比較できるようにした。 | 結果 | • 京都市の結果では、全国と比較しても若干高い傾向が見られた。<br>• 支援団体が集まる説明会において、京都市の実態について情報提供を実施した。 |

## 調査概要

全国版の実態調査をベースとして京都市版にアレンジしたアンケート調査（WEBモニター、標本数1,000（人口分布に則った割付反映後））を実施した。
結果をもとにPFに参画する支援団体への情報提供を行うとともに、行政内における政策検討のための材料として整備した。

### ⑴ 直接質問（孤独感を直接的に問うもの）

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

| | |
|---|---|
| 1 決してない | 4 時々ある |
| 2 ほとんどない | 5 しばしばある・常にある |
| 3 たまにある | |

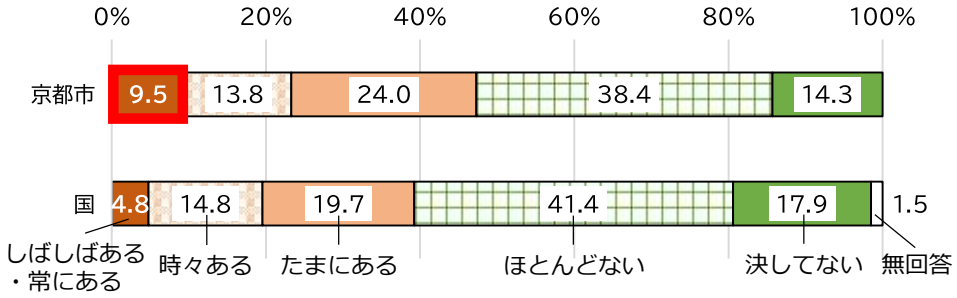
⇒ 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は9.5%

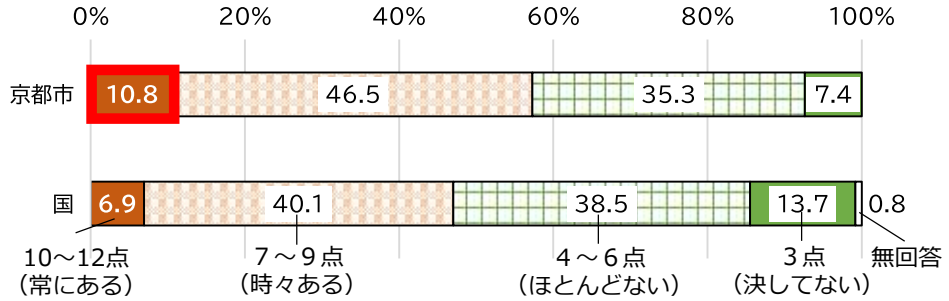
### ⑵ 間接質問
（以下の３つの設問への回答をスコア化※して孤独感を評価するもの）

①あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。
②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

| | |
|---|---|
| 1 決してない | 3 時々ある |
| 2 ほとんどない | 4 常にある |

⇒ 合計スコアが「10～12点」の人が10.8%




※「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点としてスコア化。
合計スコア（3点～12点）が高いほど孤独感が高いと評価。



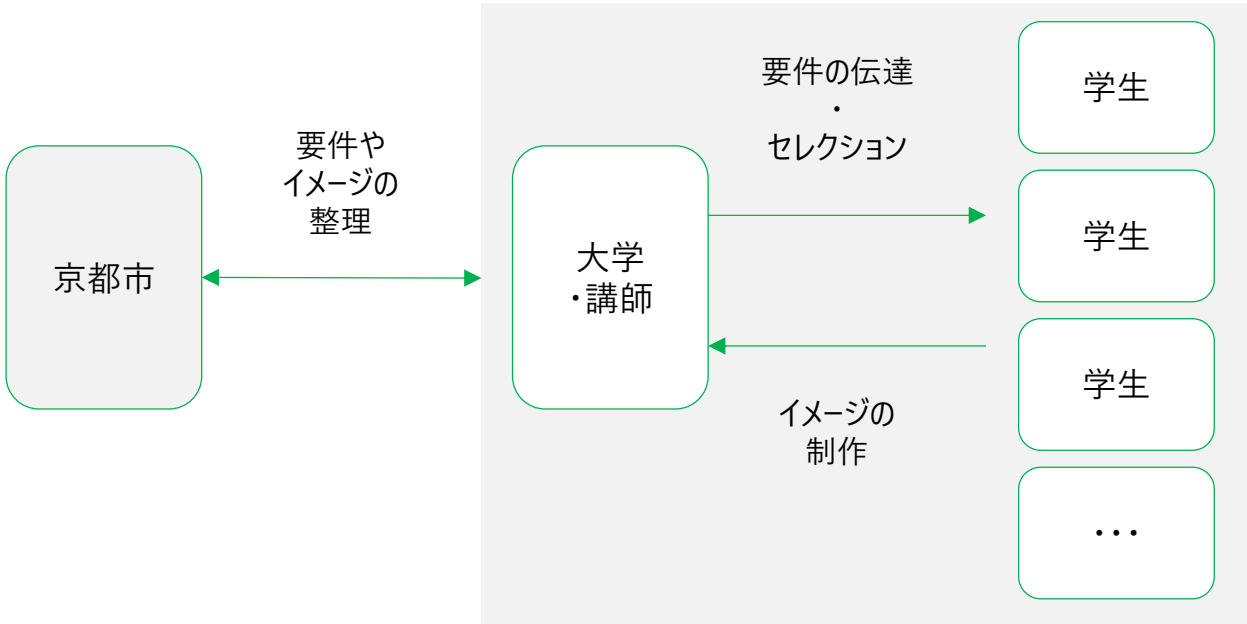
Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業一覧】_４.大学生と連携した孤独・孤立対策のイメージ検討

| | | | |
|---|---|---|---|
| 概要 | • 大学でキャラクターデザインを学ぶ学生を巻き込み、孤独・孤立対策のイメージキャラクターの制作を実施するとともに、その過程を通じて学生に対する孤独・孤立対策の普及啓発を実施した。 | ねらい | • 官学連携のきっかけとすること。<br>• イメージ制作を通じた学生の孤独・孤立対策に対する理解の促進。 |
| 工夫点 | • 大学および講師と連携し、学生に孤独・孤立対策について知ってもらい、学生を選定、大学、講師のディレクションの下制作に取り組んでもらった。 | 結果 | • 参加した学生からは、取り組むことで孤独・孤立対策に対する理解が進んだという意見が得られた。<br>• 大学と課題意識を共有し、連携することができた。 |

## 実施概要

• 京都精華大学のキャラクターデザインを学ぶ学生を対象に京都市の孤独・孤立対策のキャラクターデザインを考えてもらうことで、**大学生を対象とした孤独・孤立対策の普及啓発**を行った。制作にあたっては、大学および講師と連携し、学生に孤独・孤立対策について知ってもらい、学生を選定、大学、講師のディレクションの下制作に取り組んでもらった。京都市の意向を講師を経由して、学生に伝えることで、キャラクター制作に取り組んでもらった。学生からは人や動物、和傘などをモチーフにした様々なキャラクターデザインの提案があった。




## 実施結果

• 学生からは以下のような感想が得られた。

| | |
|---|---|
| **今回の機会をどう思ったか。** | ➢ 昨年12月に指導教員からキャラクターデザインの募集について説明を聞いたとき、「担当してみたい」と強く感じました。**これまで学んできたことや身に付いた描画スキルが、実際に活かせる良い機会**になると考えました。 |
| **孤独・孤立についての理解が深まったり、関心がわいたか。** | ➢ 当初は問題意識のない分野でしたが、アイデアを捻りラフを描き、また修正を重ねていく過程で、**孤独・孤立についてのイメージが重層化していき、より理解が深まった**と思います。 |


Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【C.試行的事業一覧】_５.京都市の孤独・孤立対策の啓発ステッカーの制作

| | | | |
|---|---|---|---|
| 概要 | • 京都市の孤独・孤立対策を周知啓発するためのステッカーを制作した。<br>• お悩みハンドブックのQRコードを貼り付けることで、支援窓口の周知につながるようにした。 | ねらい | • 京都市の孤独・孤立対策について周知を拡大すること。<br>• お悩みハンドブックの認知度を拡大すること。<br>• 支援団体に対して、PFの理解を促進すること。 |
| 工夫点 | • 子供やその親にも受け取ってらもらいやすいアイテムとしてステッカーを選定した。<br>• PFで配布することで支援団体の意識啓発を行った。 | 結果 | • 相談窓口に設置し、気軽に受け取れるようにした。また、相談窓口のQRコードが掲載されているシールを窓口に貼るなどして周知啓発に活用した。 |

## 取り組み概要

- 京都市の孤独・孤立対策を周知啓発するためのステッカーを制作した。ステッカーを行政だけでなくPF団体とともに配布することで、PFの団体への孤独・孤立対策の周知もあわせて行った。
- お悩みハンドブックのQRコードを掲載することで、当事者等が支援制度や窓口につながるようにした。
- 学生が制作したキャラクターを掲載するとともに、チラシではなくステッカーとすることで受け取ってもらいやすい様に工夫した。

## 結果

➢相談窓口に設置し、気軽に受け取れるようにした。また、相談窓口のQRコードが掲載されているシールを窓口に貼るなどして周知啓発に活用した。
➢PFの団体に対して、PFの広報として配布した、また、団体から相談窓口の周知啓発として配布を依頼した。
➢職員からは、「窓口のパーテーションに貼ることでまずは何だろうと見てもらえるきっかけになった」、「キャラクターメインのステッカーなので手に取りやすい」といった声があった。

◀窓口のパーテーションに貼っている様子


Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# 【D.PF構築プロセスにおける留意点】

## （ア）初期段階

### ① 主担当部署・主担当者の設定 【R3年度～】

- はざまの支援を行うという観点から地域共生を担当している課が孤独・孤立対策も重層事業も担当している。
- （R3）庁内でPJTチームを立ち上げ、孤独・孤立対策の方向性をとりまとめ
- （R4）とりまとめを踏まえ、連携協定およびお悩みハンドブックを実践

### ②担当者の初動 【R6年度4月～】

- 重層の担当から異動し、重層と孤独・孤立対策の体制整備を検討することとなり、まずは法の通知等の情報を読み込んだ。
- 答えのある問題ではないため、取組を進めつつ検討していくこととし、**支援団体の話を聞く中で方向性を検討していく**こととした。

## （イ）準備段階

### ③ 地域の現状把握 【R6年度11月～R7年1月】

- 行政内や支援団体における活動の位置づけや意義を説明するためには**定量的なデータと市民の声が必要**と考え、市民アンケートと、支援団体向けアンケートおよびヒアリングの実態調査を実施した。

### ④-1取組テーマ決定 【R6年度11月～】

- 取り組みテーマは、**支援団体のニーズ**に基づくべきと考え、支援団体向けのアンケートを実施し、交流や課題解決事業へのニーズが把握された。
- 団体のニーズを聞き取るからには今後推進することが必要であるため法整備や努力義務化は重要。

### ④-２連携PFの企画・設計【R6年度11月～】

- 支援団体同士の交流ニーズに応えるためにも、継続的に使用できる「お悩みハンドブック」による支援団体同士のつながりづくりの検討および説明会を通じた支援団体同士の交流機会を設けた。

### ⑤ 関係団体のリストアップ・初期メンバーへの声掛け 【R3年度～】

**庁内**

- （令和6年4月）法施行および努力義務化が決まり、庁内での理解が広まった。令和5年度に重層の検討をした担当者が孤独・孤立対策の担当に異動し、孤独・孤立対策と重層（令和6年度から本格実施）の棲み分けを検討した。
- （令和7年1月）**定量的なデータと市民の声が必要**と考え実態調査を実施

**庁外**

- （令和3年）ベースとして、子ども、高齢者、障がい、生活困窮、自殺、居住支援、男女共同参画等のそれぞれの福祉分野で関わりのある団体に声掛けを実施した。**既存のつながりで民間の団体等にも声がけ**をした。地域連携協定として**公にすることで支援団体側から連絡があり入ってもらった**ケースもある。設立当初の120団体から7団体増えて127団体になっている。

## （ウ）設立段階

### ⑥ 域内住民・団体への情報発信 【R6年度12月～】

- （令和6年12月）対策推進のイメージづくりを通じて大学と連携、大学生への周知啓発を実施。
- （令和7年2月）孤独・孤立対策のステッカーを制作しPF参画団体とともに配布

### ⑦ 連携PFの運営 【R7年度２月～】

- その都度**支援団体のニーズに基づき**、勉強会・交流会の開催や、課題解決型の事業検討等を推進していく予定。活動を検討するための話し合いの場をもうけることも検討中。孤独・孤立対策は広いため、**特定の課題をテーマとして取り扱う**ことも検討。

## （エ）自走段階

### ⑧ 地域協議会の設置 【R6年度10月～】

- 重層と棲み分けることで新たな縦割りを生むことを懸念し、包括化することも検討したが、現在は、14区やその中の圏域、学区区分で連携し、地域に根差して支援をする重層と、市域全体での多くの活動者のつながりを作る孤独・孤立対策が**重なって活用しあう体制**を検討中。

役割分担
連携

### ⑨ PFの拡大・活性化 【R7年度～】

- PFの参画団体については、孤独・孤立対策では特に民間の団体や、草の根で活動している団体に広げていくことを目指す。

# 【E.ブレイクスルー要因】　支援団体の活動や思いから方向性が見えてくる

令和6年4月　　令和6年9月～令和7年2月　　令和7年3月

## 取り組み課題

- PFを立ち上げたが、連携協定に基づくものとして立ち上げた背景もあり、参画する団体に認識してもらえていなかったり、行政から情報を提供することがメインの活動となってしまっている現状であった。

## その後の変化

- 支援団体の活動や思いを知ることができ、また、交流会や課題解決型の事業に取り組みたいといった活動ニーズも把握することができた。
- 上記を踏まえて、PFの活動内容や今後の方向性が見えた。

## アクション／ブレイクスルー要因

- 支援団体に対してニーズ調査を行い、活動ニーズを把握した。
- 試行的な事業についても、参加したい団体を募集し、団体の取組や思いについてヒアリングを実施した。

## アクション／ブレイクスルー要因

- 法施行や努力義務化が追い風


Copyright (C)　Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.